アデランス

アデランス　CSR　検索

https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/

第 3 版　発行：株式会社アデランス
協力：佐川印刷株式会社

2018 年 2 月改訂

笑顔のために

これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

アデランス

第3版

笑顔あふれる心豊かな社会へ

私たちは多くの人々に夢と感動を提供したい、笑顔と心豊かな暮らしに貢献したいとの思いから、毛髪に関するさまざまな取り組みを行ってまいりました。これらの取り組みを1冊にまとめた冊子を作成したところ、多くの皆さまにアデランスの活動を知っていただくことができ非常にうれしく思っております。さて、このたび作成した本冊子は、回を重ねるごとに活動の幅が広がったことから、新たな取り組みを盛り込み編集しました。日本国内のみならず世界中の人たちから信頼される企業となるために、新たな社会的価値のグローバルな創造に挑戦してまいります。今後も引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社アデランス
代表取締役会長
根本信男

株式会社アデランス
代表取締役社長
津村佳宏

INDEX

■ 社会・地域貢献 …… 2 - 3
愛のチャリティ／NPO法人JHDACへのサポート
One World プロジェクトへのお手入れ支援サービス
大阪大学寄附講座と脱毛症患者のQOL向上
大学との産学連携

■ お客様の安心・安全 …… 4
病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大
医療用ウィッグのJIS規格化

■ 環境への取り組み …… 5
フォンテーヌの森の植林活動
廃棄への工夫（適正な廃棄処理、フィッター削減）

■ 学術・文化活動 …… 6
ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団
人工毛髪の研究開発

■ 海外での取り組み …… 7 - 9
オリンピック金メダリストへのウィッグ提供
My New Hairへの支援
Pay It Forward／Hair Club For Kids
米国乳がん研究協会への寄付
タイの病院へのウィッグ寄贈・環境保護活動
フィリピン工場へ労働省から表彰

■ 新たな動き …… 10
コミュニティラジオ・書籍からＣＳＲ活動の発信
大学での特別講義や企業向けセミナーの実施

■ 社会・地域貢献

子どもたちの笑顔と出会うために。キャンペーン活動は広がっていきます。

愛のチャリティ／NPO法人JHDACへのサポート

「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガで髪を失ったお子さまへオーダーメイドウィッグをプレゼントする「愛のチャリティ」を、1978年から40年継続して行っています。2012年9月には、クリスマス限定キャンペーンを通年チャリティに変更し、2014年からはレディメイドウィッグのプレゼントも開始しました。

また、「愛のチャリティ」と同様の活動をしているNPO法人JHDAC※の趣旨に賛同し、全国のアデランスサロンの個室を、ウィッグの採寸や受け渡しなどの支援場所として提供しています。

※JHDAC（事務局長　渡辺貴一氏）は、日本人の髪の毛の寄贈を受け、美容師を通じて子供たちにウィッグを無償提供しているNPO法人です。

One World プロジェクトへのお手入れ支援サービス

One World プロジェクトは、東日本大震災で被災されたがん患者さま向けに、ウィッグや帽子などを提供する被災地支援プロジェクトです。当社は、このプロジェクトの趣旨に賛同し、がん患者さまに提供するウィッグの調整やメンテナンスをサポートする「お手入れ支援サービス」を実施。当初は、2014年6月までの予定でしたが、継続の要望が寄せられたため、本サービスを延長し、行っています。

■ 社会・地域貢献

毛髪と頭皮の健やかな未来のために大学との産学連携を進めています。

板見教授

大阪大学寄附講座と脱毛症患者のQOL向上

当社では、2006年4月より大阪大学大学院医学系研究科の寄附講座を開設しています。この講座が目指すのは、薄毛で悩む人々へ新たな解決策を提供することです。研究を担当している板見智教授は、世界で注目されている毛髪研究者の一人。男性型脱毛症のメカニズムの解明、育毛剤開発、赤色LEDの育毛作用、円形脱毛症の治療など多くの研究成果を発表しています。最近では、これまで科学的に表現しづらかったウィッグの効果を、大阪大学で学術的に検証し、評価されました。これにより、ウィッグの社会的価値を大いに高めています。

真田教授（左）

北野学長（右端）
猪股教授（左から2番目）

大学との産学連携

当社では、毛髪に関する分野で様々な大学と産学連携を行っています。東京大学大学院では2012年から真田弘美教授（医学系研究科老年看護学/創傷看護学分野）と、頭髪に関するスカルプケアサイエンスの研究や、抗がん剤で脱毛された患者さまのQOL改善アイテムとしてのウィッグの有用性を調査。将来、医療用ウィッグが公的補助を受ける可能性を視野に入れて活動しています。大分大学では、2013年から最先端のがん研究を行っている猪股雅史教授（消化器・小児外科学講座）と、抗がん剤の副作用である脱毛予防に関する共同研究が進行中です。

■ お客様の安心・安全

安心して来店できるサロンへ病院内に移動式理美容イスを導入。日本からヨーロッパにまで拡大中です。

静岡県立静岡がんセンター店

長崎医療センター店

病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大

抗がん剤治療などを受けている患者さまが気軽に脱毛ケアやウィッグの相談ができるように、2002年より全国の病院内に順次バリアフリーの理美容室を開設。車イスに乗ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスを導入した店舗は、現在30店舗に達しました。ヨーロッパでもこうした取り組みは広がり、8店舗に到達。世界中で、より多くの患者さまが安心してご来店いただける環境を提供していきます。

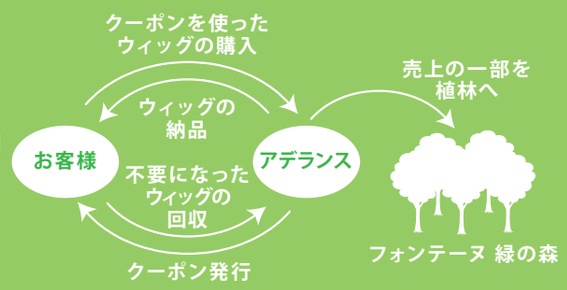
医療用ウィッグのJIS※規格化

日本毛髪工業協同組合では、2013年より国家規格である医療用ウィッグのJIS規格化を進め、当社はこの取り組みを全面的にサポート。2015年4月20日に世界初の医療用ウィッグのJIS規格（JIS S 9623）が公示されたのち、当社は7月2日に医療用ウィッグ全20製品の自己適合宣言を行い、日本毛髪工業協同組合が認証する「Med・ウィッグマーク」の使用が許諾されました。今回のJIS規格化により、医療用ウィッグの品質が向上。保険適用や医療費控除などの公的助成への取り組みが大きく進むことになりました。

※JISとは、工業標準化法に基づく日本工業規格（JIS）という国家規格のことを指します。

■ 環境への取り組み

不要なウィッグの回収が植林へとつながっていくエコサイクルの広がり



フォンテーヌの森の植林活動

2009年から始まった「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」は、ウィッグの回収と植林をつなぐキャンペーンです。不要となったウィッグの回収時に、クーポン券を発行。券を利用して新たなウィッグを購入すると、売上の一部が植林活動への寄付にあてられます。山梨県笛吹市の山林にある「FONTAINEの森」は現在までに、累計1200本以上の植林実績を残しています。2017年には「緑と桜のエコロジカルプロジェクト」として活動範囲を山梨県から日本全国の自然遺産を保全する活動に広がりました。

廃棄への工夫（適正な廃棄処理、フィッター削減）

当社では環境に配慮し、さまざまな工夫を行っています。お客様から回収したウィッグは、焼却基準の厳しい廃棄処理方法を行っているJFE環境株式会社川崎エコクリーンと契約し処分。適正廃棄でCO_2排出の削減に努めています。

また、これまで頭のサイズを採寸する場合に、「フィッター」と呼ばれる特殊樹脂製品を使用してきましたが、新たに3Dスキャナーを導入。フィッター使用量の減少による廃棄物の削減とフィッター輸送量減少によるエネルギーの軽減につながっています。

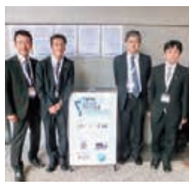
■ 学術・文化活動

優れたウィッグを提供し、エンターテインメント界を盛り上げています。

写真提供：東宝演劇部
『エリザベート』(2015年公演より)

ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団

設立から30年を経過した当社文化芸能部門・スタジオADは、2015年に上演15周年を迎えた東宝ミュージカルの代表作『エリザベート』や名作舞台である『放浪記』などで、ウィッグ製作技術協力を行っています。また、その他にも映画やドラマ、コンサートなど幅広い場面で当社の技術力が生かされています。スタジオADは、エンターテインメントウィッグという専門的な分野で、今後も技術力を最大限に生かした質の高いウィッグを提供していきます。



鞠谷教授（右から2番目）

人工毛髪の研究開発

将来的な人毛減少を見据え、当社では1983年より人工毛髪の研究を始めています。1990年には、人毛の風合いに近い「サイバーヘア」を開発。その後、2006年の「バイタルヘア」の開発など研究を深化させる中で、2015年オーストラリアにて行われた「アジア繊維会議」で、当社研究員が新たな人工毛髪の研究を発表しました。この研究は人毛供給における社会的課題の対応策のひとつです。今後も紡糸工学およびプラスチック加工における世界的権威である東京工業大学の鞠谷雄士教授との共同研究により、更に人工毛髪のクオリティを高めていきます。

病気による脱毛で悩んでいる方々をウィッグやカットの技術で支えます。

オリンピック金メダリストへのウィッグ提供

アデランスUK社は、2012年のロンドン、2016年のリオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得した英国自転車競技のジョアンナ・ロウセル選手に、ウィッグを提供しています。10歳の頃から脱毛症に悩んでいた彼女が同社のウィッグを初めて着用したのは、オリンピックのセレモニーのとき。これをきっかけに同社ウィッグのファンとなった彼女は、2015年に執り行われた結婚式でも新たに同社がプレゼントしたウィッグを着用。この写真が人気雑誌「Hello」に取り上げられ、大きな話題となりました。

My New Hairへの支援

アデランスUK社は、英国王女の専属美容師をつとめ大英勲章(MBE)を叙勲したトレバー・ソルビー氏が開始したチャリティ「マイ・ニューヘア」の活動を支援しています。抗がん剤で脱毛に悩む患者さまへのサポートの一環として、ウィッグに関する専門的知識や技術を持った美容師を育てる活動を実施。同社は、練習用ウィッグの提供と美容師への技術指導を行っており、すでに500名以上の美容師が活躍しています。

乳がんの患者さまが笑顔になるように支援の輪を広げています。

Pay It Forward／Hair Club For Kids

米国ヘアクラブ社では、映画「ペイ・フォワード」に感銘を受け、“厚意の輪を広げる”というボランティア支援活動を始めました。受けた厚意を相手に返すのではなく、周りの人に感謝の気持ちを広げていくことをテーマにしています。この活動とは別に、1995年より6歳から17歳の髪に悩む子供たちにウィッグをプレゼントする「Hair Club For Kids」という活動を20年以上継続して行っています。

米国乳がん研究協会への寄付

米国ボズレー社では、以前より年に1回米国乳がん研究協会へ金額を決めて寄付を実施。2015年9月からは取り組みに対する社員のモチベーションを高めるため、内容の見直しを図りました。これまでの一定金額寄付から、ピンクリボン月間である10月の売上に応じて、その一部を寄付するという方法に変更。これにより、社員の意識が高まり、活動が活性化しました。

■ 海外での取り組み

生産拠点の タイやフィリピンでも さまざまなCSR活動を 展開しています。

タイの病院へのウィッグ寄贈・環境保護活動

タイでは、2012年より試作ウィッグを現地の病院へ寄贈しています。以前までは、試作のために大量に製作したウィッグは良品でありながら廃棄せざるを得ませんでした。そこで、試作品を病院に寄贈できる環境を整備。6年間で贈呈したウィッグは、約2,000枚になりました。日本国内だけでなく、タイでも多くの笑顔が溢れています。

また、ウィッグ製作時に生じる廃材はリサイクルし、その収益で植林活動も実施。一部の廃材は、退職する社員へ贈る花束にもなっています。

フィリピン工場へ労働省から表彰

重要な生産拠点のアデランス・フィリピン社では、より良い職場づくりにも力を入れています。女性の社員をはじめとした職場環境の充実や、福利厚生面での促進、社員の家族への配慮が評価され、フィリピンの労働省管轄である“MDG ACHIEVEMENT FUND”から、表彰を受けました。

■ 新たな動き

新たなCSR活動の 取り組みは たくさんの人に 広がっています。

コミュニティラジオ・書籍からCSR活動の発信

当社のCSR活動はさまざまなメディアと結びつき、その取り組みを発信しています。2015年よりコミュニティラジオ番組「KIZUNA Station」(3月11日OA)で当社の東北エリアにおけるCSR活動を紹介。ボランティア団体と病院と企業が三位一体となった継続的な活動が評価されました。

また、新たなCSR活動の発信方法として、「三方よしに学ぶ　人に好かれる会社」、「新しい時代の技術者倫理」、「渋沢栄一に学ぶ『論語と算盤』の経営」などの書籍を執筆。今後も、当社のCSR活動の取り組みを知っていただけるようさまざまな発信を行っていきます。

大学での特別講義や 企業向けセミナーの実施

当社の事業を通じたCSR活動は外部からも高く評価され、大学や企業より講義やセミナーの依頼が増えています。大学の特別講義は、東京大学、早稲田大学、明治学院大学、金沢工業大学、駿河台大学、東洋大学、東北大学、関西大学、関東学院大学などで実施。大学以外にも九州経済調査協会主催のイブニングセミナー、日本フィランソロピー協会や経営倫理実践研究センターのセミナーなど、専門機関においてもセミナーを行っています。